

「災害時保健活動推進マニュアル」の代表者が語る 生きる平時の訓練・研修

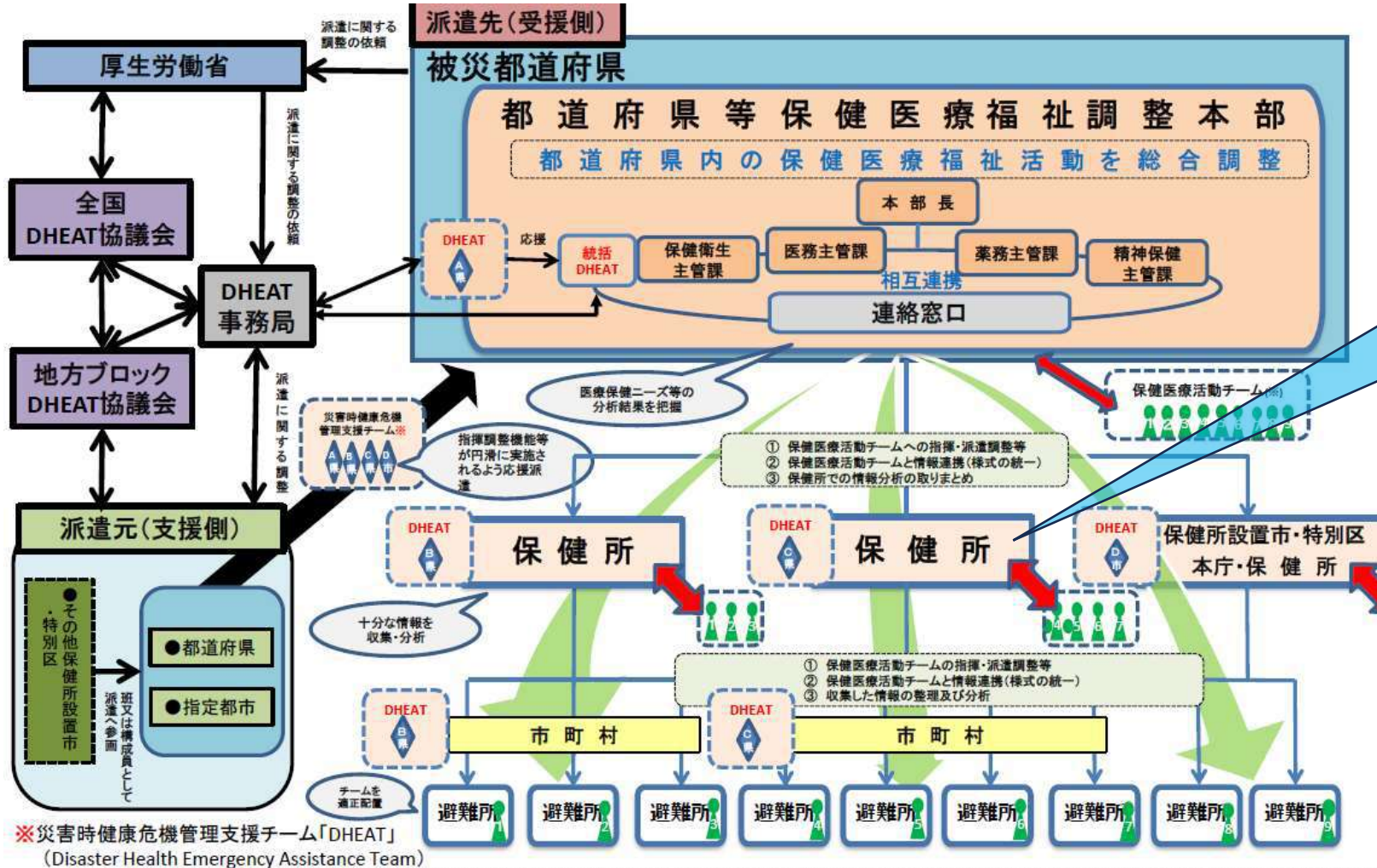
公益社団法人日本看護協会

常任理事 松本 珠実（前全国保健師長会・会長）

内 容

- 実践報告における災害時の保健活動のポイント
- 災害時に「活かせる」準備とは？
- 災害時保健活動推進マニュアルの活用方法

能登北部保健福祉センターに求められた災害急性期・亜急性期の役割



※災害時健康危機管理支援チーム「DHEAT」
(Disaster Health Emergency Assistance Team)

(※) (凡例) : 保健医療活動チーム(DMAT, JMAT、日本赤十字社の救護班、国立病院機構の医療班、歯科医師チーム、薬剤師チーム、看護師チーム、保健師チーム、管理栄養士チーム、DPA)

- 甚大な建物被害
- 長期間に渡るライフラインの断絶
- 広域な2市2町を管轄
- 職員も被災者
- 兼務の保健所長
- 保健師の年齢バランスの不均衡

- 職場に行けないジレンマ
- 休養や栄養など、基本となる体調管理が困難な状況

- 過去の災害の検証
- 市町との情報共有/連絡会の開催
- 地域保健関係者研修会の実施

- 保健医療福祉チームの受援
- 市町村支援
- 避難所データ等地域のデータ収集
- 活用できるデータへの変換
- 組織マネジメント

災害時に「活かせる」準備とは？

自治体組織としての備え

- 活動体制の整備
- マニュアルの整備
- 情報管理
- 地域診断
- 備蓄
- 他機関との連携/協定の締結
- 災害に強いまちづくり

災害時要配慮者支援の備え

- 【対象】
- 医療的ケアを要する児・者
- 独居高齢者
- 母子
- 【対策】
- 名簿作成
- 個別計画の策定
- 減災教育

対応力の向上

- 【対象】
- 保健師
- 他の自治体職員
- 関係者
- 地域住民
- 【対策】
- 研修の受講
- 訓練の実施

自組織としての備え

【組織内で行うこと】

- 参集計画を立てる
- 職員の連絡網などの整備
- 災害対策本部との連携窓口の決定
- 統括保健師の設置
- 統括保健師を補佐する体制の整備
- 組織を越えた活動体制の構築
- **受援計画の立案**
- 外部との連携窓口の決定
- 支援を要請するルートの決定

【他組織との連携】

- 医療計画の策定
- **医療関係者(医師会・歯科医師会・薬剤師会・看護協会等)との協議**
- 災害拠点病院(災害医療コーディネーター)との連携
- 医療機関のBCPの確認
- 救護所設置などに関する応援協定の締結
- 市町村・保健所・都道府県の役割と支援体制の確認
- **応援自治体との相互応援協定の締結**

活動体制の整備

【脆弱性評価】

- 豪雨災害、土砂災害、台風、噴火、地震、被ばく等の被害の可能性
- 地震によって引き起こされる被害の可能性
＜例＞倒壊；クラッシュ症候群、津波；低体温症
- 災害時要援護者、災害弱者（要介護者、透析患者、在宅酸素療法患者、高齢者、外国人、妊産婦、新生児、その他）
- 医療サービス、福祉サービスの量 ・避難行動の予測（車中泊、帰宅困難者、その他）

【地域防災計画】

- 保健師が保健師としての役割を果たせる計画への修正

【情報収集・情報発信】

- 避難行動要支援者の避難計画の策定 ・**情報収集様式の統一化** ・EMISからの情報入手
- LINE・SNSの活用 ・災害対策本部の情報を一元的に把握できる仕組み ・複数の情報発信手段

【活動物品】

- **活動マニュアルの整備⇒アクションカードの作成** ・資機材 ・媒体
- これらの補充と更新など管理



受援計画の立案

(1) 職員の参集計画の立案

就業時間外に発災した場合、職員が徒歩・自転車などで職場に参集できる時間を調査し、発災後の職員体制を見える化する。

(2) 非常時優先業務の選定

被災状況に応じて、優先して実施すべき通常業務は何か？何から再開すべきか？を検討する。

(3) 災害応急対応業務

応急救護、医療体制の構築など被災により新たに発生する業務を洗い出す。

(4) 応援業務の選定

(1) (2) (3) を勘案し、どの業務を保健医療活動チームに応援してもらうかを検討する。

応援業務
計画書の作成

応援業務計画書の例

応援受入シート

作成・更新日時: _____ 年 月 日

業務名: _____ 担当部局 _____ 課 担当 _____

応援者が行う 具体的業務	
-----------------	--

希望する応援者 計画上の必要人員数 (_____ 人)	自治体職員 <input type="checkbox"/> 自治体内の他所属職員(業務経験の有無) <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 問わない) <input type="checkbox"/> 管轄保健所の職員
	その他の保健医療チーム <input type="checkbox"/> DHEAT <input type="checkbox"/> 保健師チーム <input type="checkbox"/> DPAT <input type="checkbox"/> JMAT <input type="checkbox"/> 歯科医師チーム <input type="checkbox"/> JDA-DAT <input type="checkbox"/> JRAT <input type="checkbox"/> その他(_____)
	協定の有無 <input type="checkbox"/> あり(締結先: _____) <input type="checkbox"/> なし
その他特記事項:	

応援者に求める具体的な職種・資格等	
-------------------	--

応援者の活動体制	<input type="checkbox"/> 単独活動(応援者が市町村職員とは別に単独で活動してもよい) <input type="checkbox"/> 複数活動(原則、応援者は市町村職員と一緒に活動し、単独活動は控える) <input type="checkbox"/> その他(_____)
----------	--

指揮命令者、応援受入担当	
<input type="checkbox"/> 業務指揮命令者 (正) _____ (副) _____	<input type="checkbox"/> 応援受入担当 (正) _____ (副) _____

情報収集・共有体制	
<input type="checkbox"/> 会議・ミーティング (その他) _____ <input type="checkbox"/> 朝礼・終礼	

執務スペース	
<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 (場所) _____	

地図・資料	
<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 (内容) _____	

その他資機材	
<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 (内容) _____	

マニュアルの有無	
<input type="checkbox"/> 有(名称/保管場所: _____ / _____) <input type="checkbox"/> 無	

○所属チェック用

- | | |
|---|---|
| 1. 応援要請 | 3. 応援受入確認 |
| <input type="checkbox"/> 応援要請の必要性を判断
<input type="checkbox"/> 必要な人数、資格等の確認
<input type="checkbox"/> 応援要請の決定 | <input type="checkbox"/> 作業手順書の確認
<input type="checkbox"/> 応援者の受付
<input type="checkbox"/> 応援者名簿の作成 |
| 2. 応援受入準備 | 4. 応援受入期間中 |
| <input type="checkbox"/> 地図・資料の準備
<input type="checkbox"/> その他資機材の準備
<input type="checkbox"/> マニュアルの確認
<input type="checkbox"/> 執務・作業スペースの準備
<input type="checkbox"/> 宿舍の準備
<input type="checkbox"/> 情報通信手段の準備 | <input type="checkbox"/> 被災状況・応援内容を先遣隊に伝達
<input type="checkbox"/> 引継の実施 |
| | 5. 応援終了 |
| | <input type="checkbox"/> 応援終了(撤収)の判断
<input type="checkbox"/> 応援終了の決定・応援受入担当への報告
<input type="checkbox"/> 費用負担の確認 |

応援業務計画書の例

作業手順

	作業項目	作業詳細	備考
1	オリエンテーション	保健福祉センターでのオリエンテーションを受け、活動に必要な帳票類を受け取る	
2	避難所運営管理者への挨拶	A区保健福祉センターの指示による派遣であることを明確に伝える	
3	避難所でのニーズ把握	避難者数の把握、空調、トイレ等の環境確認し、保健福祉センターに報告	
4	医療の必要な対象者の医療へのつなぎ	緊急処置の必要な対象者を災害医療拠点病院等へつなぐ	
5	必要な医療処置・薬が無い対象者への対応	透析、インシュリン、HIV・血友病・その他の服薬を要する者を把握し医療機関・薬局につなぐ	社会資源無なら保健福祉センターに連絡
6	感染症対策	トイレまでの動線を踏まえた消毒薬の配置 手洗い・うがいの励行・健康教育等の実施 イベントベースドサーベイランス	
7	健康相談の実施	血圧測定、簡易な外科処置、必要時医療機関等へのつなぎ	
8	保健指導の実施	歯磨き、エコノミークラス症候群予防のための運動等の保健指導	
9	活動報告	「被災地への支援活動報告書」「健康調査票」を作成し、保健福祉センターへの要点的口頭報告	
10	ミーティングへの参加	指定された時間に保健福祉センターに参集し、活動計画を聞き、情報交換を行う	

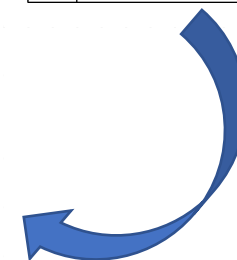
○業務フロー

業務開始時期
 発災後72時間～ 発災後1週間～ 発災後2週間～
 その他()

集合場所:
 集合時間:

作業手順

	作業項目	作業詳細	備考
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			



避難行動要支援者に対する個別計画の作成意思に関連する要因

(ロジスティック回帰分析)n=245		オッズ比	95%信頼区間		P値
			下限		上限
避難行動要支援者の生命を守る 意義感	低群	1.00			
	高群	6.17	2.87	-	13.25
保健師役割としての認識	低群	1.00			
	高群	3.18	1.31	-	7.73
様式に関する知識	低群	1.00			
	高群	3.85	1.88	-	7.89
作成手順の知識	低群	1.00			
	高群	2.66	1.19	-	5.95
作成時間の無さへの認識	低群	1.00			
	高群	2.13	1.12	-	4.03

従属変数:個別計画作成意思(1:高 0:低)

保健師の医療的ケアを要する災害時避難行動要支援者の個別避難計画作成意思に関連する要因,松本珠実,横山美江,大阪公立大学看護学雑誌:1;2023,11-.20

○個別避難計画は、避難行動要支援者の生命を守ることに意義を感じる事が重要(東日本大震災において死者数の約6割が高齢者、障害者の死亡率が被災住民全体の死亡率の約2倍に上った)

○職場全体で戦略を立てて段階的に個別避難計画の作成に取り組む等、保健師役割として位置づけることが必要

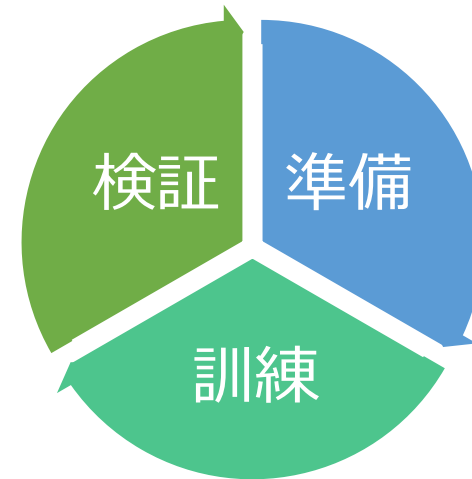
○保健師が個別避難計画を作成する際に、個別ケースにサービスが入っていると足が遠のき、支援者と関わる機会が少なくなり、保健師の役割が不明確で進め方がわからないといった戸惑いがある

○様式や手順に関するガイドラインの活用や研修が必要

○作成時間の確保が必要

災害訓練と関連する備え

無を0, 有を1とした時のオッズ比が1.5以上の項目
災害時所掌事務を越えて保健師が活動できる 体制 への変更
災害時保健活動 マニュアル
避難所 情報収集 様式
災害時保健活動に応援を求める自治体との 協定締結
医師会・看護協会等と災害対策を 話し合う場
受援を終了するタイミングの目安： 受援準備
災害時保健活動に関する 研修 の実施



災害訓練の一連の過程（準備：訓練：検証）によって、左記の備えが促進される可能性がある

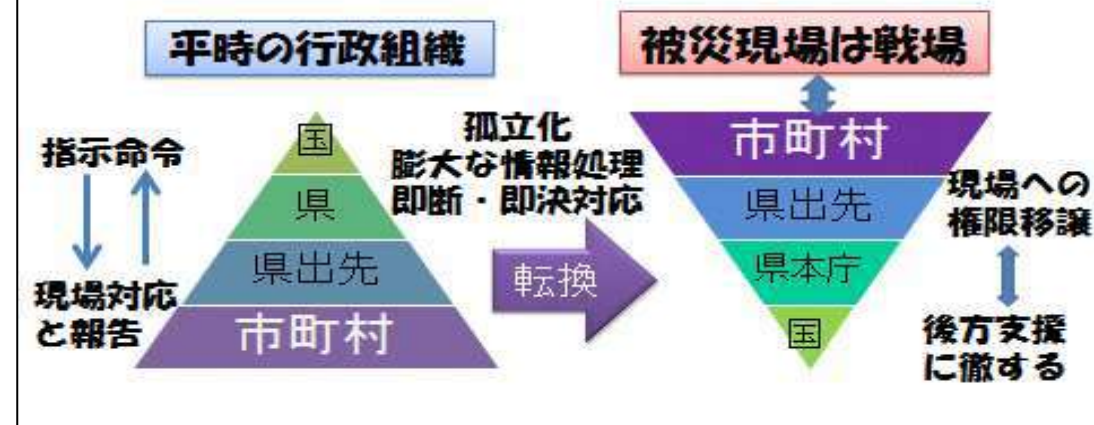
災害訓練の体系（マトリックス表）

目的	訓練対象となる範囲				
	市町村内	保健所内	保健所・市町村合同	関係機関と合同	地域住民と合同
スキル	・クロノロ・HUG・ケースメソッド・救命法・トリアージ	・DHEAT研修・防護服着脱・ケースメソッド・HUG	・リーダーシップ/統括保健師研修・HUG・ケースメソッド	・トリアージ ・応急手当	-
体制	・保健医療調整本部設置 ・初動体制構築/指揮命令系統確認 ・救護所設営・参集	・地域災害医療本部設置 ・保健所機能復旧訓練 ・初動体制構築・参集訓練	・災害対策本部設置 ・ICS机上訓練・ 初動体制の構築 ・ 受援体制研修	・救護所開設 ・避難所開設	・避難所開設
資機材	・活動マニュアル確認 ・活動資機材点検/確認 ・備蓄物品・名簿点検/更新 ・情報収集様式等帳票準備	・活動マニュアル確認 ・活動資機材点検/確認 ・備蓄物品・名簿点検/更新 ・情報収集様式等帳票準備	・原子力防災資機材取扱	-	・人工呼吸器非常用電源動作確認
安全	・事業参加者避難誘導	・職員緊急メール伝達訓練	-	・避難訓練	・シェイクアウト・避難訓練 ・避難行動要支援者避難
情報	・EMIS入力 ・情報集約 ・情報伝達訓練	・EMIS入力 ・被災状況通報 ・管轄市町村情報伝達訓練	・情報収集 ・EMIS入力・記録 ・情報伝達訓練 ・アセスメント/対策立案	・情報伝達訓練 ・防災無線等通信訓練	・情報伝達訓練
連携	・保健師等派遣要請訓練 ・災害時相互応援協定自治体支援要請訓練	-	・ DMAT・DHEAT連携 ・ 保健師等派遣要請訓練	・医療救護訓練（搬送）	・福祉避難所への搬送、受入
活動	・アクションカード作成 ・防疫対策 ・避難所巡回	・アクションカード作成 ・応急救護 ・クラッシュシンドローム/人工透析患者対応	・アクションカード作成 ・低体温症対策 ・シミュレーション・トリアージ ・災害時援護者対応 ・健康調査 ・急性期～慢性期支援	・救護所運営 ・避難所/福祉避難所運営 ・健康調査 ・防疫対策 ・災害時要援護者対応	・災害時要援護者安否確認 ・救護 ・除染 ・健康調査・健康観察 ・エコノミークラス症候群健康教育

災害等健康危機管理事象に対応するために必要な能力



できるだけ現場対応は現場指揮部門に権限委譲、国や県本庁は後方支援と広域調整に徹することを確認



災害時の保健活動推進マニュアルの活かし方

- 対象は保健師をはじめとした保健医療活動を行う行政職員
- 全編を通じてCSCA(Command & Control・Safety・Communication・Assessment)で思考できるように作成
- 対策は初心者であっても、観察項目をチェックしながら対応できるように作成、各々の目標に応じて支援者が切り取って活用できるように工夫
- 独自マニュアルが無くても対応可能であるが、アクションカードは独自に作成することが望ましい
- マニュアルは固定ではなく、検証して見直し再構築するもの

